

平成19年度 事務事業評価表		担当	市民福祉部 健康推進課			内線等	8078
事務事業名	成人の家庭訪問と自主グループ支援事業		事業コード	1. 一般事務事業（ソト事業）			
根拠法令等	老人保健法		A法令				

総合計画での位置付け

基本目標	3. 健康で安心して暮らせるまちづくり	施策名	保健
------	---------------------	-----	----

事務事業の内容

対象（受益者）	家庭において健康について不安を抱える市民に
手 段	本人及び家族等に個々の日常生活に合わせた保健指導を行うことにより
想定する成果	健康に関する不安の軽減と健康づくりへの意識高揚を図る。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
家庭訪問件数	33人 延 73人	37人 延 69人	35人 延 60人
自主グループ事業の支援回数	58回	62回	56回
自主グループ事業の参加者数	1,496人	2,371人	2,128人

成果指標

成果指標名	1人当たりの訪問回数	1回当たりの自主グループ事業の参加者数
成果指標の説明	訪問延人数 / 実人数	参加者数 / 支援回数

事業の進捗状況 （ 一般 会計 ） （単位：千円）

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		2.2回				1.9回				1.7回			
成果指標		25.8人				38.2人				38.0人			
事業費	事業費	0				0				0			
	人件費	6,227				7,810				7,845			
	(人数)	正規	0.8	非常勤		正規	1.0	非常勤		正規	1.0	非常勤	
	合計	6,227				7,810				7,845			
財源内訳	国	4											
	県	4											
	市債												
	その他												
	一般財源	6,219				7,810				7,845			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	家庭訪問を行うことで、支援を求める市民ニーズにきめ細やかに対応でき、不安の軽減、健康意識の高揚につながっている。
経済効率性	1	1	1	1	指導人数1人当たりの人件費を見ると経済効率性は低い。
事務効率性	1	1	1	1	家庭訪問は個別のサービスであり効率性は低いが、自主グループ支援は1回平均38.2人に健康教育ができており効率性が高い。
必要性	2	2	2	2	家庭訪問、自主グループ支援事業ともに市民の要望に合わせて行う事業であり、必要性は高い。
小計	6	6	6	6	
施策への貢献度	2	-	2	-	家庭において不安を抱える市民にとっては、健康に関する不安の軽減と健康づくりへの意識の高揚に役立つ。
合計	8	6	8	6	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	家庭訪問事業により対象者の日常生活状況や要望に合わせた保健指導が行えることから必要性が高い。自主グループ支援事業は、市民の要望に合わせて健康教室を行っており、市民の健康意識の高揚のために必要な事業である。
------	---	---	---	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」
生活習慣病予防・介護予防を目的とした訪問を実施し、医療機関と連携を図り、訪問指導をしていきたい。
上記改善点の実施状況
平成19年度から基本健康診査の結果、メタボリックシンドロームの疑いがある市民を対象に生活習慣改善のための保健指導を開始し、対象者の生活状況を把握しながら指導するため、家庭訪問での指導も一部の対象者に取り入れた。

今後さらに改善すべき点

家庭訪問事業については、生活習慣改善のための指導及び心の健康に関する相談指導に力を入れていく。

平成21年度予算に反映する項目

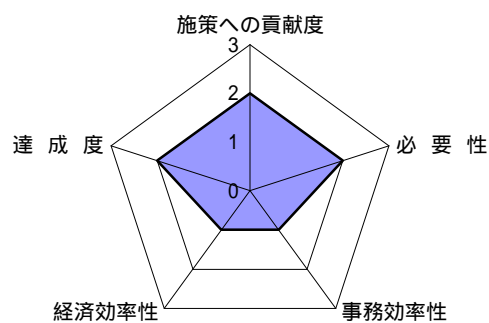
--

今後の方向性

現状維持

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的事業は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点